



53
LEADING COMPANY

美保テクノス 株式会社

持続可能なまちづくりに貢献
業界最先端に挑む総合建設会社

最新技術を生かし
より良いまちをつくる

「夢、まち、ひとつくり」のスロガンのもと、地域のまちづくりを長年リードし続ける米子市の総合建設《美保テクノス株式会社》。1958年に駐留米軍の建設機械の払い下げを受けて、初代社長・仁宮次夫氏が前身となる《美保土建機械企業》を設立したことに始まる。その後、県の土木工事などで信頼と実績を積み上げ、建設コンサルタント業にも進出し（現・株式会社エスジーズ）、山陰地方で初めて国の事業を担うことを実現した。時代のニーズに合わせて事業を展開し、現在、グループ企業には建設関連企業、IT、介護サービス業など12社が連なり、社員数は自社だけで約220名、グループ全体では650名に及ぶ。

事業の柱は次の5部門だ。道路や橋などの社会に不可欠なインフラを構築する《土木部》、公共施設・医療福祉施設・商業店舗などを建てる《建築部》、地盤改良などを手がける《ベーステック事業部》、道路の舗装や維持業務に加え、災害時の復旧活動を担う《ランドサポート事業部》、そして戸建て住宅やリフォームを手がける《総合建築部》だ。さらに自社で《設計部》を有し、2018年

から《BIM戦略部》を置く。

BIMは、コンピューターの仮想空間上に3次元モデルを構築して情報を可視化し、コストや工期の削減を可能にする革新的なシステムだ。同社は20年前からBIMを導入し、建設工程のすべてにBIMを最大限に活かす《フル・BIM》に挑むなど、この分野では業界のトップを走る。「地方の企業ですが最先端の技術に挑戦できる会社。社是である『よい仕事を、早く、安く、安全に』を実現するためにBIMなどの最新技術を積極的に導入しています」と話すのは野津健市代表取締役社長。技術やシステムは目的を叶えるツールであり「正しく使いこなして現場に生かすことで、地域に貢献しています」と力を込める。

地元のため、若者のため
持続可能な地域社会を

地域に元気がなければ、まちは発展しない。少子高齢化や人口減少が進む中で「建設業として地域全体が発展し、持続可能な社会につながるよつに貢献したい」とPFI事業（民間資本による公共施設などの社会資本整備事業）にも参加する。PFIでは、複数の企業でSPC（特別目的会社）を設立し、資金調達から民間の裁量で事業を遂行する。こ

れまでSPC代表企業は国内大手企業が担っていたが、同社は2025年4月着工の《米子アリーナ（米子新体育館）》の代表企業を務め、地元企業中心のチームを組んだ。「地元の技術力を結集し、地域の方が『地元だからこそ素晴らしいものができた』と誇れるような日本一の体育館にしたい」と意気込む。

地域に貢献し、常に挑戦できる風土は、社員にとってもやりがいを持てる環境だ。「会社には社員への責任がある。個人のやりがいを利用せず、利益は社員に還元し、ディーセント・ジョブ（働きがいのある人間らしい仕事）を生み出していきたい」と野津社長。その言葉の端々に社員や地域への想いがあふれている。



野津健市代表取締役社長。美保テクノスがSPC代表企業を務め、Full-BIMに挑んだPFI事業《鳥取県西部総合事務所新棟・米子市役所轄町庁舎整備等事業》が、2024年に内閣府の《第1回PPP/PFI事業優良事例表彰》で優秀賞を受賞した



美保テクノス 株式会社

事業内容

土木工事の施工、地盤改良工事の調査・設計・施工、建築工事の設計・施工、住宅及びリフォームの設計・施工など

創業 昭和33(1958)年7月30日

代表者 代表取締役社長 野津 健市

社員数 231名(男189名 女42名)

本社 鳥取県米子市昭和町25

電話 0859-33-9211

採用エリア(勤務地)

米子市、松江市、境港市、西伯郡、愛媛県

採用区分

新卒採用

キャリア採用

採用担当者からあなたへ

毎年、新卒・I・Uターンの中途の方を数多く採用しています。大企業と比べて、弊社のような社員数が約230名の企業だからこそ、できることもたくさんあります。新しいことにチャレンジできる環境も整っています。私たちと建設業界の価値を高めていく仲間を心よりお待ちしております！



業務部 課長 宝石 豊さん

資料請求・お問い合わせ先

採用直通 TEL

0859-33-9211

採用直通 E-mail

recruit@miho.co.jp

公式サイトはこちら



マイナビはこちら



本社社屋の最上階にあるBIM戦略部で3次元モデルを構築中の松根さん。業界最先端の技術で新しい業務に日々チャレンジできる

会社だし、杏樹もさっき言っただけ、職場見学をした時に現場が明るくていいなと思ったのが大きな理由かな。松浦 自分は野球部だったし、体を動かす方が性に合っていると思う。この仕事を選んだんだよね。外仕事は天候に左右されるし、夏は扱う機材が100℃以上にもなるから熱中症で倒れないように気を遣わないといけないけど、空調服とか塩分のタブレットとか会社が支給してくれて、体調を崩さないように配慮してくれるから本当にありがたいよね。横山 ありがたいと言えば社員旅行！美保は福利厚生が充実しているけど、社員旅行が豪華。実は、社員旅行も入社の理由の一つなんだよね。もちろんそれがすべてじゃないんだけど、後押しになったのは自分だけじゃないはず。自分は沖縄に行

くけど、すごく楽しみにしてるよ。(額く〜一回) 井原 1か所だけじゃなくて、7か所の中から自分の行きたい場所を選べるのもいいよね。沖縄以外にも東京とか、四国とか。あとは台湾とか海外にも行けるし、社員旅行目指して仕事をがんばろうと思える。松根 仕事は本当にがんばりたい。今はインターンシップの案内や資料

得とか目標はある？ 田中 ランドサポート事業部や土木部は、現場を任せてもらえるようになって一人前。信頼して任せてもらえるような現場監督になりたいかな。松浦 あとは資格。まずは現場管理に必須な2級土木施工管理技士は絶対に取らないといけない。小田 重機の資格も取っていかないといけないし、必要な資格はたくさんあるよね。仕事が終わってからも勉強するのは大変だけど、会社から補助もあるし、勉強をがんばっていいところ！



土木工事のすべての工程の基礎となる工事測量。正確な技術や工程管理などを現場で実践的に学びながら現場監督へと成長していく

おいしい。広島大学のいた時は水道水が飲めなかったもん。藤田 わかる。自分も専門学校が広島市の街地だったから。地元だからかもしれないけど、米子は都会と比べて落ち着いた感じで住みやすいよね。渉夢と杏樹も普通科だった？ 田中 父親が土木建築の仕事をしていて小さい頃から憧れがあったんだよね。美保は地元でもしっかりした

会社だし、杏樹もさっき言っただけ、職場見学をした時に現場が明るくていいなと思ったのが大きな理由かな。松浦 自分は野球部だったし、体を動かす方が性に合っていると思う。この仕事を選んだんだよね。外仕事は天候に左右されるし、夏は扱う機材が100℃以上にもなるから熱中症で倒れないように気を遣わないといけないけど、空調服とか塩分のタブレットとか会社が支給してくれて、体調を崩さないように配慮してくれるから本当にありがたいよね。横山 ありがたいと言えば社員旅行！美保は福利厚生が充実しているけど、社員旅行が豪華。実は、社員旅行も入社の理由の一つなんだよね。もちろんそれがすべてじゃないんだけど、後押しになったのは自分だけじゃないはず。自分は沖縄に行



道路や橋、港湾工事などを手がける土木部。土木工事のやりがいは、仕事が地図に残り、そして地域の暮らしを支えていることだ

作りから、米子アーリーナの設備データをBIMに入力する作業まで、いろいろなることをやらせてもらっているけど、スケジュール管理や報連相がまだまだだなんて反省しているから、しっかりやっていきたい。その上で、BIMをどう活用するのか、先回りで考えていけるようになりたいかな。あとは一級建築士も目指したいし。みんなもそれぞれ、資格取得とか目標はある？

でも、自分みたいに学校で専門的なことを勉強して美保に入ってきた人であれば、普通科とかから入ってきたメンパーもいるけど、どういう志望理由だったの？ 大ちゃんも経済学部からだった？ 横山 大きな理由はないんだけど。大阪の大学に行くと、都会は治安が悪いところもあるし、地元がいいなと思ったんだよね。こっちの方が及だちも多いし、土木ってなんかいいなって。でも、まっちゃんは山口出身で、大学も広島だけど米子に多く移住したよね。松根 大学の研究室が美保のBIM戦略部とかかわりがあるって、インターンシップとかに参加して良い会社だなと。入社して、今はとにかく覚えることが山ほどあって自分の処理能力のキャパを広げるのが大変だけど、米子は静かで住みやすいよ。もともと田舎の出身だしね。あと水が



土木部 土木施工管理	土木部 土木施工管理	ランドサポート事業部 技能職	BIM戦略部 BIM設計	ランドサポート事業部 技能職	土木部 土木施工管理	土木部 土木施工管理
藤田 哲平さん (1年目、20歳)	小田 航希さん (1年目、18歳)	松浦 杏樹さん (1年目、19歳)	松根 秀さん (1年目、23歳)	田中 渉夢さん (1年目、18歳)	横山 大葵さん (1年目、21歳)	井原 壮太郎さん (1年目、18歳)
南部町出身。愛称は「てっちゃん」。広島市の専門学校で土木工学を学ぶ。好きな飲み物は白バラコーヒー。	米子市出身。愛称は「こうちゃん」。地元の工業高校から入社。現場の雰囲気も良く、やりがいを実感。	安来市出身。「あんじゅ」の愛称で、7人中では「元気」担当。体を動かすことが好きで土木に興味を持つ。	山口県出身。広島工業大学在学中に美保テクノスのインターンシップを経験し入社。愛称は「まっちゃん」。	米子市出身。土木の仕事をしている父に憧れて、高校の普通科から美保テクノスに入社。愛称は「あゆむ」。	米子市出身。大学では経済学部に入社。地元就職を希望して大阪からUターンする。愛称は「大ちゃん」。	米子市出身。地元の工業高校の建築科土木コースを卒業し、知識を生かしたいと入社。愛称は「壮太郎」。

2024年度、美保テクノスに7名の新入社員が入社した。部署に関係なく打ち解けて、お互いを愛称で呼び合う7人組。それぞれの入社理由や現在の仕事などをざっくばらんに語ってくれた。社員を大切にしてくれるから仕事や勉強をがんばられる。松根 新入社員研修が終わってからは、それぞれの部署で、それぞれの仕事があるからこんな風にみんながそろって久しぶりだよ。みんななどんなことをしてる？ 横山 まっちゃんはBIM戦略部でデスクワークだけど、みんなそれぞれの現場に出るからかわらないよね。自分は今、高速道路の現場で地盤改良の補助をしているところ。たくさん業者様が参加している大きな現場だから、他の業者の方とコミュニケーションをとるのも勉強になる。田中 杏樹と僕のランドサポート事業部は、境港とか大山とか、あちこちに行くと、この間は県道をつくってきた。これからのいろいろな現場を経験して体を動かしながら覚えていくのかなって。管理する立場になったらまた違うと思うけど。松浦 就職活動で美保の職場見学をした時に、現場が楽しそうだったの



ランドサポート事業部は、交通インフラの維持管理や災害復旧など、舗装工事、地盤改良など地域の安全で快適な生活を支えている

が決めた理由のひとつだけど、実際に働いてみて雰囲気が良いから質問しやすいよね。決められた工期と限られた人員の中で自分も成長していかないといけないし、わからないことはどんどん聞くようにしてる。小田 土木部は若い世代が多くて、先輩の年も近いから接しやすいのいいなと思って。質問したらいろいろと教えてくれるし「この現場に来てよかった」って、わからないなりにやりがいを感ずるようになってきた。井原 自分も工業高校で専門的なことを学んだから、仕事で生かせると思って入社したけど、学校で勉強したのは本当に初歩や基礎。現場でそれをどう応用するかわからない時もあるけど、教えてもらいながら、経験を積んでわかるようになっていくのかなって思うよ。藤田 学校と実際の現場は違うよね。

でも、自分みたいに学校で専門的なことを勉強して美保に入ってきた人であれば、普通科とかから入ってきたメンパーもいるけど、どういう志望理由だったの？ 大ちゃんも経済学部からだった？ 横山 大きな理由はないんだけど。大阪の大学に行くと、都会は治安が悪いところもあるし、地元がいいなと思ったんだよね。こっちの方が及だちも多いし、土木ってなんかいいなって。でも、まっちゃんは山口出身で、大学も広島だけど米子に多く移住したよね。松根 大学の研究室が美保のBIM戦略部とかかわりがあるって、インターンシップとかに参加して良い会社だなと。入社して、今はとにかく覚えることが山ほどあって自分の処理能力のキャパを広げるのが大変だけど、米子は静かで住みやすいよ。もともと田舎の出身だしね。あと水が



重機の免許や、現場監督になるために必須の土木施工管理技士などの資格取得については、会社が費用負担などの支援を行う